

仮面女子

紗綾??

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

女子の、怖さ、裏切り、仮面女子をそのまま書いてみました！

目次

仮面女子

(ああ、学校だる、みんなめんど。)

日向 「麻里(まり)ちゃん！おっはよおー、ねえねえまた彼氏出来たって本当!？」

麻里 「え、そうだけど……………」

(どっから情報回ってんだよ? ってか他人の彼氏なんてどうでも良くね?)

日向 「ええー!、どんな人？」

麻里 「言う程でもないよ」

(つてか言いたくねえし)

日向 「ええ…………… 教えてよおー」

(うぜえんだっつーの)

気づけば私の周りには人がたくさん集まっていた

麻里 「ううーん……………」

??? 「困ってるじゃん！他人の彼氏探るの良くないと思うよ！」

この声は…………… 同クラの友梨香(ゆりか)ちゃん

私と仲良くなりたらしいけど、地味な子だし興味ない。

私のいつめんはギャル系ばっか

みんな、彼氏持ちで何股もかけてる子もいるくらい W W W

友梨香 「あんなに聞かれると困るよね。」

(お前に助けられる方が困るんだけど)

麻里 「うん、そうだね。ありがとう！」

友梨香ちゃんは笑顔になった

教室に行こうとすると…………… ついてくる!?

(まさか教室までついてくるつもり? きもっつ)

麻里 「トイレ寄るから先に行つて」

友梨香 「うん。わかった。」

嫌われたくないからか私の言うことは聞いてくれるみたい W W W

(簡単なやつだなあ…………… W W W)

教室につくといつめんが声をかけてきた

未紗 「ねえねえ、麻里今日の朝囲まれてたけど大丈夫？」

麻里 「うん。平気平気」

真希 「助けられたのあいつって聞いたけどマジ最悪だね」

麻里 「そうそう、ホント関わらないでほしいわぁwww学校内で話しかけられなきやいいけど」

未紗 「あいつ、麻里と友達になりたいんでしょう？マジきもつつwww」

沙織 「ホントやだわぁ〜そーゆーの」

???' 「俺はお前らみたいなのが一番嫌いだけど」

近くで聞いていた井川 颯人（いがわ はやと）が割り込んできた

沙織（さおり）の彼氏だ

沙織 「え、いや…………… 違うんだよ?!」

沙織 「そーゆーのマジいらない」 「チツ」

沙織は舌打ちして私たちの方向に向き直した
そして、小さな声でそういった。

沙織 「まあ、まだ彼氏6人いるからいいんだけどwww」

未紗 「ホント沙織最高だわぁ〜www」

真希 「次のターゲットあいつでもいい？www」

沙織 「もちwww」

ー昼休みー

颯人 「なあ、麻里〜俺の上履き知らね？」

麻里 「え、知らないよ」

本当は知ってる。沙織たちが隠したんだよね

颯人 「あれ？ないなー」

麻里 「これはー？」

渡したのは、井川と書いてある上履き

颯人 「あー、あったありがとう」

私は微笑んだ。颯人は微笑みの意味を知らずに教室へ向かった

???' 「先生ー私の上履きがないんですけどー」

叫んだのはいつめんの真希（まき）。真希の名字は井川で実はさつき渡したのは、真希の上履き。

未紗 「颯人？それ真希の上履きじゃない？」

真希 「あつ！ほんとだ！先生！颯人が私の履いてました」

颯人はきつと私の方を見た。でも私は爪のお手入れ中

先生 「井川君これはどういうことかな？」

颯人 「えっ!?でも、これは……………」

未紗 「女子の履くなんてね〜」

「やばー」「きもー」 教室中でそんな声が聞こえてくる

先生 「井川君、職員室へ」

颯人 「え？嘘だろ……………」

私は立ち上がった。

麻里 「先生！お手洗いに行つてきます」

そして、颯人の横を通つたとき

麻里 「本当のこと言つたらどうなるかな？言うか言わないかは颯

人が決めていいよ」

と言ひ残し、トイレに行った。フリをした。

颯人と先生が職員室に行つたのを確認して教室に戻つた

真希 「最悪く颯人に履かれたんですけどー」

真希がまだ叫んでいた。

未紗 「真希、かわいそうー」

という言葉とは裏腹に、沙織の顔は笑顔で溢れていた。

真希 「もう一つやつとく？」

沙織 「うーん、今回うまくまとめたらいんじゃない？」

未紗 「そうだねー」

先生と颯人が戻つてきた。そして、颯人はみんなに謝つた。

4人は顔を合わせた。

今回颯人にやることはこれで終わり、そういう合図だと思つてい

た。しかし、違うようだった

ー放課後ー

美化委員の仕事が終わつて教室に戻ると

沙織 「あんたが真希にしたことわかつてる!？」

颯人 「ご、ごめん。悪かった……………」

颯人の声は力尽きていた。

真希 「ああ、麻里がいればなあ……………」

颯人 「やめてくれ」

(え？私？)

沙織 「麻里がいれば半殺しにできたのに」

そこには、元気に仁王立ちする 沙織、未紗、真希、と颯人の姿があった。

颯人 「つつ！やめて、やめてくれ！」

颯人の情けない声が聞こえる

(ふっつ久しぶりに暴れられる？♪)

麻里 「私のこと呼んだ？」

勢い良くドアを開けた。

???

沙織 「来てくれると思ったよー」

真希 「麻里ちゃん」

颯人 「さつきはよくもやってくれたな」

沙織 「逃げるなら今のうちだよ？ま、逃げられないけど」

(え？どういうこと？)

未紗にグーで殴られた

そうか、やられた！

さつき、颯人のやられたような声は、必死に笑いを抑えてる声で

「麻里がいれば半殺しにできたのに」の意味は私が半殺しにするんじゃないくて、私が半殺しにされるんだ。

さすがに、4対1は無理がある。

私はやられっぱなし、

—ガラガラ

誰かが入ってきた。

その時、私の記憶はもう朦朧としていた

?? 「麻里ちゃんを殴るなら私を殴って！」

この声は……………？友梨香ちゃん!?

沙織が倒れたのが視界に入ってくる。

次に、未紗、真希と倒れ、最後に颯人が倒れた。
そして、私の目の前に手が差し伸べられる

友梨香 「さ、行こう」

私は迷わず手を握った。そしてスクバを持って、教室から走り去った

友梨香ちゃんの家まで行き、手当をしてもらった。

友梨香 「家には誰もいないから気にしないでね」

麻里 「仕事？」

友梨香 「うん」

麻里 「さっきは助けてくれてありがとう」

友梨香 「ううん」

麻里 「友梨香ちゃん強いんだね」

友梨香 「昔、空手やってたからね。今はもうやめたけど」
.....

しばらくの間、沈黙が続いた。

麻里 「長居しちゃうと悪いから帰るね」

友梨香 「ううん。もうちよつといてよ」

麻里 「そう？」

友梨香 「うん」

麻里 「じゃあ、もう少しだけ」

友梨香 「今日は.....」

(なんだらう?)

友梨香 「今日は帰らせないからね」